

# ヘルマンハーブ普及 20周年の想い

日本ヘルマンハーブ振興会 会長／梶原 千沙都



20周年記念で開催された「20th Anniversary ヘルマンハーブ演奏発表会」

## ヘルマンハーブとの出会い

ヘルマンハーブは、今は亡きドイツ人のヘルマン・フェー氏が、ダウン症のある息子、アンドレアスさんにメロディーを弾くことのできる楽器を与えてあげたいと願って開発した、誰もが弾ける美しい弦楽器です。私はヨーロッパに在住中の2003年に日本人として初めてヘルマンハーブに出会いました。

ヘルマンハーブは、上から見るとグランドピアノのような形の響板の上に、1.5~3オクターヴの音域に半音ずつ弦を張ってあります。白や黒の音符の玉を記したヘルマンハーブ専用楽譜を弦の下に通して両手で音符の玉をはじくと、すぐにゆったりとしたきれいな音で伴奏も付けて演奏ができます。ヘルマンハーブはヨーロッパのバイオリンやチェロを製作する素材を用いて精巧に造られているので、弾く人も感動するきれいな音なのです。

「ヘルマンハーブを日本で普及したい！」という思いを決定付けたのは、ヘルマンハーブのクリスマスミサのコンサートの光景を見たことです。

そのミサは、ヘルマンハーブのアンサンブル、室内オーケストラ、パイプオルガンの共演で進んでいきましたが、ヘルマンハーブのアンサンブルを見ると、知的障がいのある人や老若男女の健常者全員が、同じ楽器、『ヘルマンハーブ』を持って奏でていました。弾いている人々の姿は、「ヘルマンハーブを弾いている自分の姿が素敵だ！」という自信にあふれていることが一目で見とれました。奏でられるいろいろな讃美歌の音色のやさしさ、美しさ、そして世代を超え、ハンディキャップを超え、楽器が人々を結びつけているその光景に声を失うほど感動しました。そして、このような楽器を子どものために作り出した、ヘルマンさん。その親の思いの大きさ、崇高さに畏敬の念を感じずにはいられませんでした。

日本で普及を開始した当初、現在のJDS代表理事の玉井浩先生からは『ダウン症療育研究会』での発表や「世界ダウン症の日」のイベント出演などの機会をいただけてきました。ダウン症のあるヘルマンハーブ奏者がたくさん誕生していったのです。

## 弾く人の自尊心を高める楽器

私は15年以上、ダウン症のある青少年にヘルマンハーブを教えてきました。私が世界初で開発した「ヘルマンハーブの奏法」も分かりやすく指導すると、長い時間をかけてじっくりと身に付けていきます。身に着けたことは意外に健常者よりもしっかりと覚えています。ドイツ大使館や領事館のレセプションでも、障がいのある人もない人も共に奏でる「バリアフリーステージ」を披露してきましたが、鑑賞に来た人の目を気にして演奏がうまく行かないということはありませんでした。いつでも「本番にツヨイ」のです。健常者がダウン症のある人と演奏を共にすることで、健常者が思いがけなく学ぶことがいくつもありました。

2016年には、『知的障害のあるヘルマンハーブ奏者についてどのような変化が表れているのか』を知るためにアンケート調査を行いました。その結果、ヘルマンハーブは「集団への参加」「他者との協調性」において40%以上の方から「良くなった」という回答がありました。ヘルマンハーブは弾く人の自尊心を高め、社会性を育める質の高い楽器だと確信しています。



ヘルマンハーブの講習を受けるダウン症のある奏者たち

## 普及20周年を祝う演奏会

2023年11月12日に、ヘルマンハーブの日本普及20周年を祝う演奏会「20th Anniversary ヘルマンハーブ演奏発表会」(JDS後援)を、慶應義塾大学日吉キャンパスの藤原洋記念ホールで開催しました。障がいのある人もない人も共に奏でる「バリアフリーステージ」は500名の来場者から拍手喝采が沸き起こり、大きな感動を呼びました。昨今では、障がい者関連の団体や事業所でもヘルマンハーブの余暇活動を取り入れて活動されている様子がSNSにもたくさん現れてくるようになりました。1台のヘルマンハーブが笑顔を呼び起こし、施設内の空気を明るく変えています。

そしてアフターコロナの昨今は、インターネット上でもダウン症のある人の誇らしげな演奏の動画がたくさん見受けられます。ダウン症のある方々がヘルマンハーブと共にウェブサイトに登場するのは、新しい時代の楽しみと言えます。私も「梶原千沙都のYouTubeチャンネル」にて、ヘルマンハーブとはというところから情報を発信していますので、ぜひご参考にしていただけたらと思います。

## ヘルマンハーブについて

### もっと知りたい方へ

梶原千沙都のヘルマンハーブチャンネル



日本ヘルマンハーブ公式サイト

Hermann Harp  
JAPAN

